進行役の森下氏

の水が入って安全に工事ができない」と分かり易く補足。「命を守るために必要なもの」と使用目的などを解説した。

続けて、土木構造物のスケールを実感してもらうため、重さが約800kg以上もあることを伝えたあと、用意した鋼矢板の実物大紙型（13・5m）を体育館の2階から1階までいっぱいに広げると、児童からは「すごい」「大きい」と感嘆の声が上った。

一方のかごマットについては、ピンポン玉を代用した〝かごマット〟の模型が目の前に出され、敷き詰められた石の隙間を魚たちが棲家とすることなどを紹介。

吉田氏は、コンクリート護岸よりも費用も手間もかかるかごマットの設置について、水の抵抗力が弱まることで耐久性も上がるほか、柔軟性を有する多孔質構造となっているため、覆土による植生の復元や生物の生息場を創出することなどを噛み砕いて説明。

最近の工事は地球環境にも優しい多自然型護岸を採り入れていると語った上で、かごマットは昔〝蛇籠（じゃかご）〟と呼ばれていたことも補足。「高い技術を持った職人さんが上手に石を積まないと崩れてしまう」とも伝えた。

このほか授業では、30近くの種類が建設業にはあることや、生活するための環境を守り、様々な建物もつくるなど、あらゆる場面で建設業が生活環境を支えていることを、映像を通じて伝えた。

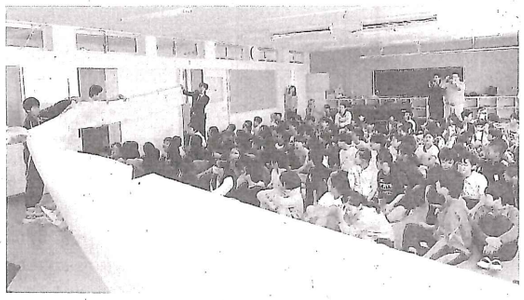
最後に吉田氏は、今回見たような護岸工事を含め、土木工事について説明。「ダムや空港、トンネルのような大型プロジェクトから身近な道路・水道工事まで様々な種類があるが、地下の目に見えない部分も含め、いずれも生活に密着した大切な工事。将来の仕事として選んでくれれば嬉しい」と期待を寄せた。

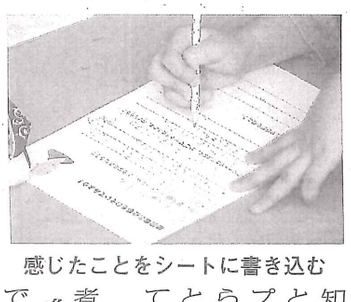
これに対し、児童の代表が「建設工事について知らないことが多く、とても勉強になった。プロの人に教えてもらえて嬉しかった」とお礼の言葉を述べて授業は終了した。

終了後、学校関係者からも「建設業が〝縁の下の力持ち〟であることを伝えたい』地元にも富勢地区の治水に携わった成島魏一郎・勇親子という偉人がいる。建設業の重要性を踏まえて児童達に教えていきたい」といった声が聞こえていた。

同研究会では、世間一般の建設業に対する関心の低さから間違った認識や3Kのイメージを持つことを懸念するとともに、業界関係者の「子どもたちに建設業の魅力を理解してもらいたい」という強い気持ちにも共感。

建設業の真の姿を子どもたちに見せることで、日常生活や街づくりに欠かせない存在であるだけでなく、自然災害発生時等にも人知れず活躍していることを理解してもらうことで次世代を担う人材の育成に繋がればと期待し、授業プログラムを開発した。


鋼矢板のスケールにびっくり


感じたことをシートに書き込む

児童からお礼の言葉が伝えられる

〝社会貢献〟胸にまい進

若手指導へ期待 永年勤続優良者を表彰

千建協北総支部

宮村支部長

県建設業協会北総支部（宮村良典支部長）は、ホテル日航成田で第41回永年勤続優良従業員表彰式を20日に開催し（写真）、対象となった6人の優れた技術や、若手の指導に貢献したなどとして、その功績をたたえた。

冒頭あいさつに立った宮村支部長は「今回の表彰者は、優良工事を受賞したり、一級土木施工管理技士の資格を取得したりと、いずれも長年現場で活躍している」と称賛。「営業職や職長と立場は違っても、後輩の育成に努力されている」とも語り、各氏の功績を披露した。

その上で「我々の実感では、まだまだ昨年に比べ仕事量が少ない気がする。品確法の中で担い手の育成が明示されているが、社会保険に末端まで加入しなければならないなど、適正価格での受注が必要となる」と指摘。

さらに若手の育成についても「土日の休みなど難問が山積している。今回の優れた受賞者は、率先して業界を引っ張っていってほしい」と、若手の入職と育成が業界の課題だと述べた。

表彰式では、宮村支部長から一人ひとりに賞状と記念品が手渡された後、来賓の紹介と祝辞と移った。受賞者への祝賀を示す祝電は、秋元真利衆議院議員や小泉一成成田市長から寄せられた。

祝辞では、来賓を代表して相川堅治富里市長が「継続は力なり。いいものを確実につくっていただきたい。そのためには信頼が大事だ。建設業界とは、お互いの信頼関係のもとによいものをつくっていただいていると信じている。今日表彰された方々は素晴らしい会社に所属されていると思う」と語り、「これからも素晴らしいものづくりをしてほしい」とエールを送った。

県印旛土木事務所の勝股稔所長は「皆様方には日ごろから土木行政に多大な貢献をされ、深く感謝を申し上げる。6人の方々の様々な実績を後進の方々に範を示していただきたい」と称賛。

道路・河川・土砂災害防止などの事業は、地元建設業の力が不可欠とも強調し「安全・安心な社会資本の整備に対し、豊富な経歴と優れた技術を発揮していただきたい」と更なる協力を呼びかけた。

これに対し、受賞者を代表して出山安男氏（東邦建設㈱）が「このような栄誉ある賞をいただき身に余る光栄。私ども勤続年数は異なるが、会社のため・社会のためそれぞれが大過なく勤め上げた。これもひとえに関係各位の皆様のご指導ご鞭撻の賜物だ。この感謝の気持ちを胸に、建設業界の発展のために誠心誠意尽くす」と、新たな決意を表明した。

同表彰は、同支部規定による会員の永年勤続を讃えるためのもので、会員会社の従業員のうち、年齢30歳以上で、10年以上勤続している従業員が対象となっている。

第41回永年勤続優良従業員表彰の対象となった受賞者（敬称略）は以下のとおり▽氏名（所属企業）＝勤続年数――の順。

▽椚原庸介（鎌形建設㈱）＝14年7ヵ月
▽吉田啓二（共立工業㈱）＝26年5ヵ月
▽三上均（竹内建設㈱）＝12年11ヵ月
▽鎗田毅（竹内建設㈱）＝10年7ヵ月
▽出山安男（東邦建設㈱）＝12年6ヵ月
▽森拓也（平山建設㈱）＝15年7ヵ月

来賓らと記念撮影（後列が受賞者）